

公益財団法人岐阜県教育振興会 教育研究奨励金 交付申請書

令和元年 8月29日

・個人研究の部 ○グループ研究の部 (○印をつける)

公益財団法人 岐阜県教育振興会 御中

Table with 2 columns: 申請者 (Applicant) and 職氏名印 (Name and Seal). Applicant: 岐阜市立岐阜小学校. Name: 藤田 忠久. Seal: (印). Address: 〒500-8038 岐阜市大工町1番地 (058) 265-6388. Affiliation: 岐阜市立岐阜小学校校内研究会 (20名).

下記のとおり研究を実施したいので、教育研究奨励金の交付を申請します。

記

Main application form table with 6 rows. 1. 研究題目: 研究主題「よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科授業」... 2. 研究目的: 今秋に開催される第57回「全国小学校社会科研究協議会研究大会」岐阜大会において... 3. 研究内容: 本年度の研究内容、研究内容および研究の進め方などについて具体的に記入する。本年度以降の計画... 4. 過去の研究成果: 最近発表した研究題目およびその概要、研究成果を掲載したパンフレットまたは書名... 5. 研究指導助言者: 一般財団法人 総合初等教育研究所 参与 北 俊夫... 6. 研究に要する経費: 研究上の主たる経費は何か。従来経費はどのようにしていたか。

上記申請の研究は、教育振興に有意義としますので推薦します。

令和元年 8月29日

Recommendation table with 2 columns: 推薦者職氏名・印 (Recommender Name and Seal). Name: 岐阜小学校長 藤田 忠久. Seal: (印).

【様式1】 令和元年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	岐阜市	学校名	岐阜市立岐阜小学校		
校長名	藤田 忠久	対象学年	全校	人数	332人
項目 該当する項目に ○をつける	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し、取り組んだ実践			
活動のねらい	コミュニティ・ティーチャーと共に学び合う「ふるさと学習」による「学校支援・地域活用～参加型」から「地域創造型の学校」への進化・発展				

活動の特色・児童生徒の変容など

1 取組の経緯や実践の特色

岐阜小学校は、城下町と官公街を校区とする岐阜市中心部の二つの小学校が統合し、平成20年度に開校した学校である。岐阜市最初のコミュニティ・スクール(以下CS)に指定され、「ふるさと大好き」を合い言葉に、開かれた学校として家庭や地域と一体となった学校経営や教育活動を推進している。

生活科や総合的な学習の時間(3年「校区の伝統・文化」、4年「地域の福祉と生命」、5年「長良川」、6年「岐阜まち」)には、地域の各種団体をはじめ、

寺院、商店、施設、官庁等からコミュニティ・ティーチャー(地域の外部講師、以下CT)を招き、文化、歴史、自然、産業など、各方面からの話を聞いたりCTへの取材活動を行ったりして、自分たちが学んだ故郷の良さをまとめ、同学年や他学年の児童、保護者や地域の方々に発表していく学習を進めている。こうすることで、校区への理解と故郷への愛着を段階的に深めるようにしている。

社会科でも、総合的な学習との関連も図りながら、地域の人的・物的財産を効果的に活用した授業を行っている。社会的事象を「自分のこと」として捉えることができるよう、地域素材を教材として開発し、CTと共に考え学び合う学習を進めることで、子どもたちが「社会とつながる」実感を得られるようになってきた。今年度は、第57回「全国小学校社会科研究協議会」岐阜大会の第1会場校として、3年生は和菓子職人、4年生が水防団長、5年生は老舗旅館の若女将、6年生は歴史博物館の学芸員等をCTに招き、よりよい社会の実現を目指す授業を提案することができた。

これらの授業に、恒例となった「ふれあいフェスタ」等のイベントを加えた「ふるさと学習」は、児童のみならず、教職員、保護者、地域住民、…学校に関わる全ての人々の自信や誇りへと繋がっている。岐阜小CSは、導入当初の「学校支援・地域活用型」から、「学校支援・地域参加型」を経て、持続可能な地域づくりへと向かう「地域創造型」の学校への進化・発展を遂げつつある。

2 児童やCTの様子(変容や成長)

子どもたちは「ふるさと学習」の学びを生かし、地域のために進んで活動したり、社会に向けて発信や提案をしたりすることができるようになった。特に社会科では、社会的事象を「自分のこと」として考えることができるようになり、社会の実現を目指そうとする姿につながってきたと言える。CTと活動したり、CTへの発信をしたりする中で、問い返しや切り返しを受けたときにも、既習内容や資料を根拠に、堂々と受け答えをすることができるようになってきた。それは、社会への関わり方を考える場などで、様々な立場に立って社会のことを考えられる姿につながったからだとして考えている。CTのもつ専門的な知識・技能により、子どもたちの学習が質的に深まったり補完されたりしたと考える。

また、多くのCTが、学習サポーター、ボランティア・スタッフとして、「地域の学校に貢献できた」「自分が学校教育に役立っている」とやりがいを感じ、これまで以上に学校や地域への愛情や自信を高めている。ご高齢のCTからも「子どもたちから元気ももらっている」という声が寄せられ、CTとしての経験によって、笑顔が増えて幸福感をもつとともに、心身ともに一層健康な生活を過ごせると感じていることを窺い知ることができる。

